

令和6年10月18日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

ムーンショット型研究開発事業（ムーンショット目標10）における プロジェクトマネージャーの決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、ムーンショット型研究開発事業（ムーンショット目標10）のプロジェクトマネージャー（PM）募集における採択者を決定しました。

ムーンショット型研究開発事業は、超高齢化社会や地球温暖化問題などの重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）を国が設定し、挑戦的研究開発を推進すべき分野・領域などとして文部科学省により定められた研究開発構想に基づき、研究開発を推進するものです。ムーンショット目標に関する研究開発全体の責任者であるプログラムディレクター（PD）の下、プロジェクトマネージャーは、ムーンショット目標の達成および研究開発構想実現に至るシナリオの策定、研究開発プロジェクトの設計、研究開発体制の構築、研究開発プロジェクトの実施管理などを行います。提案はムーンショット目標ごとに募集し、PDがアドバイザーなどの協力を得ながら選考します。

令和5年12月に新たに追加されたムーンショット目標10（「2050年までに、フュージョンエネルギーの多面的な活用により、地球環境と調和し、資源制約から解放された活力ある社会を実現」）について、PMを募集した結果、47名の応募がありました。募集締め切り後、書類選考と面接選考を実施し、3名を採択しました。

今後、ムーンショット目標の達成に向けて、より効果的・効率的な研究開発となるよう、採択されたPMは、PDの指揮の下でムーンショット目標達成に至るシナリオ、研究開発プロジェクトの詳細計画などの作り込み（提案した研究開発プロジェクトの内容の見直しなど）を行います。その内容が妥当であるとPDに認められたPMは、研究開発プロジェクトの実施が可能となります。

詳細は下記ホームページを参照してください。

<https://www.jst.go.jp/moonshot/index.html>

<添付資料>

別紙1：応募数および採択数

別紙2：プロジェクトマネージャー（PM）・研究開発プロジェクト一覧

別紙3：評価者一覧

参 考：選考の観点

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 ムーンショット型研究開発事業部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

櫻間 宣行（サクラマ ノリユキ）

E-mail：[moonshot-koubo\[at\]jst.go.jp](mailto:moonshot-koubo@jst.go.jp) ※電子メールでお問い合わせください。

応募数および採択数

ムーンショット目標名	応募数	採択数
ムーンショット目標10 2050年までに、フュージョンエネルギーの多面的な活用により、地球環境と調和し、資源制約から解放された活力ある社会を実現 (PD: 吉田 善章)	47	3

プロジェクトマネージャー（PM）・研究開発プロジェクト一覧

（五十音順）

ムーンショット目標10「2050年までに、フュージョンエネルギーの多面的な活用により、地球環境と調和し、資源制約から解放された活力ある社会を実現」

PM氏名	所属・役職	研究開発プロジェクト名
奥野 広樹	理化学研究所 仁科加速器科学研究センター 核変換技術研究開発室 室長	革新的加速技術による大強度中性子源と超高温プラズマ維持装置の開発
木須 隆暢	九州大学 超伝導システム科学研究センター センター長	多様な革新的炉概念を実現する超伝導基盤技術
星 健夫	自然科学研究機構 核融合科学研究所 教授	超次元状態エンジニアリングによる未来予測型デジタルシステム

※研究開発プロジェクト名は、採択後の作り込み（提案した研究開発プロジェクトの見直しおよび具体化）を経て変更される場合があります。

評価者一覧

ムーンショット目標10「2050年までに、フュージョンエネルギーの多面的な活用により、地球環境と調和し、資源制約から解放された活力ある社会を実現」

(敬称略、所属・役職は選考終了時点のもの)

	氏名	所属・役職
プログラムディレクター (PD)	吉田 善章	自然科学研究機構 核融合科学研究所 所長
アドバイザーなど外部有識者	安藤 晃	東北大学 高等大学院機構 特任教授
	上田 良夫	追手門学院大学 教授
	柏木 美恵子	量子科学技術研究開発機構 那珂フュージョン科学技術研究所 上席研究員
	近藤 寛子	マトリクスK 代表
	常田 佐久	千葉工業大学 天文学研究センター 所長
	服部 健一	ヘリシティX 代表
	森井 孝	京都光華女子大学 健康科学部 教授
	山崎 泰規	理化学研究所 客員主管研究員
	山田 弘司	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授
	山田 道夫	京都大学 数理解析研究所 特任教授

選考の観点

選考は、主に以下の観点などにに基づき総合的に実施しました。

- ① PMとしての資質
 - 最先端の研究開発を推進するため、国内外の関連する研究者などの幅広い人的なネットワークや専門的な知識を有すること。
 - 最適な研究開発体制を構築し、進捗状況などに応じて機動的に体制を見直すなどのマネジメント力、リーダーシップ力を有すること。
- ② PMの提案する研究開発プロジェクト
 - PMから提案されたプロジェクトの目標や内容（以下「提案内容」という。）が、従来のものと比べ、より大胆な発想に基づくものかつ挑戦的なものであり、将来の産業・社会に大きなインパクトが期待される革新的なものであること。
 - 2050年の目標達成に向けて、技術的観点や官民の役割分担を含む社会実装の観点から妥当なシナリオ（成功の仮説）を明確に説明できるものであること。
 - 提案内容が国内外を問わずトップレベルの研究開発力や知識、アイデアを結集するものであること。

以上